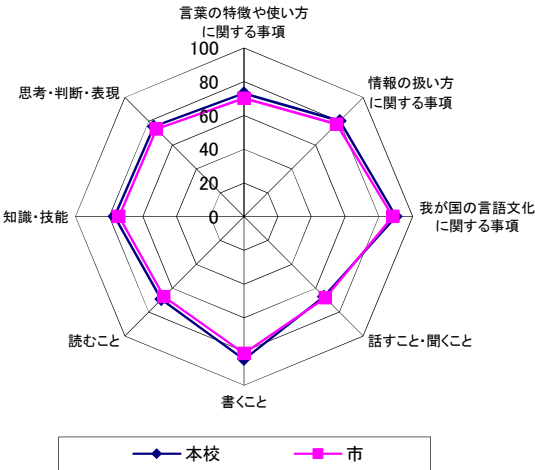


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	80.3	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	90.2	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	67.0	68.2	67.4
	書くこと	84.7	81.1	71.7
	読むこと	69.4	67.2	61.3
観点別	知識・技能	76.8	74.2	67.9
	思考・判断・表現	75.6	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

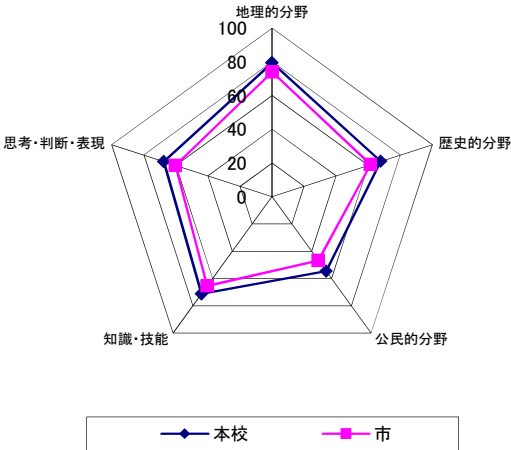
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を2.9ポイント上回っている。全ての問題で市の平均を上回っており、「第3学年までに学習した漢字を正しく読む」問題では、市の平均を6.5ポイント上回っている問題もある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについて、小テストを行い、新出漢字だけでなく既出の漢字も再度確認しながら定着させていく。 ・助動詞などの文法については、教科書にのっている文章や自分が書いた文の中で確認をし、より定着させていく。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は市の平均を2.7ポイント上回っている。「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝える文章になるように工夫する」問題では、市の平均を3.7ポイント上回っている。	・情報と情報の関係を整理できるように、ワークシートを作成し、スモールステップで考えることができるように工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は市の平均を1.9ポイント上回っている。「歴史的仮名遣いについて理解する」問題では、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ●「現代語訳を手掛かりに古典を読む」問題では、市の平均を1.8ポイント下回っている。	・今後も歴史的仮名遣いの定着を図るため、今後も音読などに力を入れていく。 ・様々な古典作品を読む機会を作り、古典に関心を持たせる。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は市の平均を1.2ポイント下回っている。特に「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫する」問題では、市の平均を7.7ポイント下回っている。 ○「話の展開を予測しながら聞く」問題では、市の平均を3.8ポイント上回っている。	・話し合いやスピーチの時間を積極的に設け、発表者の工夫に着目して、聞くことができるように指導していく。また、聞き取り問題を多く取り入れ、問題になれることができるようにする。
書くこと	○平均正答率は市の平均を3.6ポイント上回っている。特に「自分の考えが分かりやすく伝える文章になるように工夫する」問題では、市の平均を6.3ポイント、「自分の考えを明確にして書く」問題では、市の平均を6.9ポイント上回っている。 ●「目的や意図に応じた表現になっているか確かめて、文章全体を整える」問題では、市の平均を3.6ポイント下回っている。	・自分の考えを持ち、それを分かりやすく伝えるように表現を工夫することはできている。今後も一人一人が考え、それをノート等に表現する時間を十分に確保する。 ・推敲の時間などを多く取り入れ、文章全体が整っているか確認する機会を設ける。
読むこと	○平均正答率は市の平均を2.2ポイント上回っている。「文章の表現の仕方について評価する」問題では、市の平均を5.8ポイント上回っている。 ●「文章を読んで考えを広げたり深めたりする問題では、市の平均を0.9ポイント下回っている。	・説明的文章の読み取りでは、今後も論の展開に注意して読めるよう、ワークシート等を工夫し、行っていく。 ・文学的文章の読み取りでは、今後も読書を励行し、読むことに関心を持たせていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	79.4	74.0	67.9
	歴史的分野	67.8	61.5	56.1
	公民的分野	54.6	46.9	40.7
観点別	知識・技能	71.3	65.5	60.6
	思考・判断・表現	67.5	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

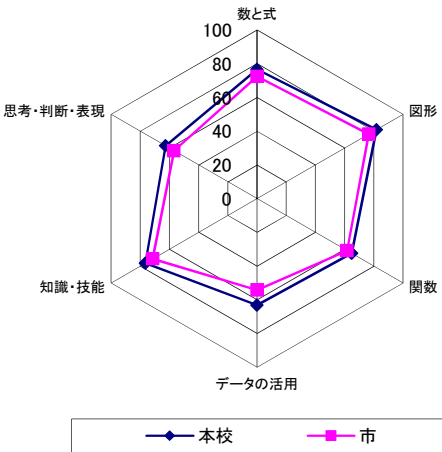
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の平均を5.4ポイント上回っている。個別の設問ごとにみると、10ポイント以上上回ったものもある。文章記述については、2問とも市の平均を約5ポイント上回っている。基本的な知識の定着及び文章記述に関する技能がおおむね身に付いていることがわかる。 ●九州・四国地方の農業の特色についての設問では、市の平均を0.5ポイント下回っている。また、地方ごとの工業の特色も正答率が55.7ポイントと低く、日本の諸地域についての理解があいまいである生徒が多いことがわかる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章記述については良好な成果が見られたので、文章でまとめるなどの指導を継続して行っていく。 ・日本の諸地域の特色については、地図帳やクロームブックなどを活用し、地形や気候と関連付けられるよう、視覚的な効果を図った学習方法を検討したい。 ・基本的な知識の習得をより確実なものにするため、ワーク等の課題を定期的に出していくようにする。
歴史的分野	○市の平均を6.3ポイント上回っている。個別の設問ごとにみると、世界の古代文明への理解及び江戸時代の三都の発展についての理解は市の平均を10ポイント以上上回っている。文章記述については市の平均を9.1ポイント上回っている。 ●江戸時代に関する設問の正答率が低い。特に資料を読み取る問題での正答率は50%程度である。（市の平均よりは5～10ポイント上回っている）	・複数の資料を読み取り、考察する問題の正解率が低いことから、資料の活用が今後の課題となる。読み取れたことを文章でまとめる力を身に付けさせることが今後の指導の重点となる。 ・基本的な知識をより確実なものにするため、ワーク等を活用して、学習した内容をアウトプットできるようにさせていく。
公民的分野	○市の平均より7.7ポイント上回っている。個別の設問ごとにみると、日本国憲法の3つの基本原理に関する設問では市の平均を13.2ポイント上回っている。 ●ほとんどの問題で市の平均を上回っているが、正答率を見ると50%程度であり、最も低いもので35.9%となっている。半数の生徒に知識として定着できていないことが分かった。	・基礎的な知識の定着のために、ワーク等を活用していく。 ・憲法の条文などの資料を活用したり、文章で記述できる力が身に付くよう、自分が理解できたことをまとめるなど、短文記述の練習などを行っていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.7	72.5	71.3
	図形	81.8	76.5	68.1
	関数	64.8	61.7	50.3
	データの活用	63.2	54.2	43.5
観点別	知識・技能	76.4	71.5	66.7
	思考・判断・表現	62.6	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

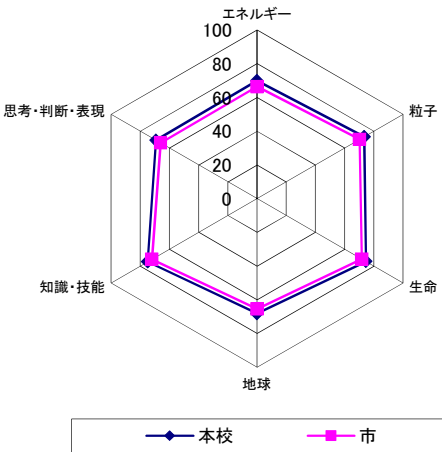
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市の平均より4.2ポイント上回っている。特に2次方程式の文章問題に対する正答率が、市の平均を11.8ポイントも上回っている。正しく文章を読み取り、立式する力がついていると考えられる。 ●平均正答率は市の平均を上回っているが、かっこを含む多項式の計算は、市の平均と比べて0.6ポイント下回っている。演算のルールがあいまいな生徒が多いと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・eライブラリの利用を増やし、基本的な計算など繰り返し行う場面を多く設定していく必要がある。 ・利用の問題を解けている生徒が市の平均と比べても多いため、教え合いなどで下位層の生徒ができるようにしていきたい。
図形	○平均正答率は市の平均より5.3ポイント上回っており、特に作図の問題では、市の平均を19.2ポイントも上回っている。垂線の性質をきちんと理解していると考えられる。また、どの項目においても高い正答率であり、きちんと図形分野が理解できている。	・作図や証明の仕方については丁寧な指導と生徒の取り組みの成果が見られる。基本的な知識の定着も見られるので、応用問題に積極的に取り組ませていきたい。
関数	○平均正答率は市の平均より3.1ポイント上回っている。特に表から適切なグラフを選ぶ設問に対する正答率は、市の平均を5.2ポイント上回っている。 ●平均正答率は市の平均を上回っているが、グラフ上に頂点を持つ正方形の辺の長さを求める問題では正答率が27.7ポイントと設問の中で最も低かった。	・比例、一次関数、2乗に比例する関数の基本的な知識や理解力は身に付いているが、グラフと図形の混合問題に課題が見られた。図形の特徴から各頂点の座標を求めたり、その図形の面積を求める訓練を行ってきたい。
データの活用	○平均正答率は市の平均より9.0ポイント上回っている。特に箱ひげ図における四分位範囲を求める問題に対する正答率は市の平均と比べて22.2ポイントも高い。 ●ヒストグラムを読み取り、その特徴をもとに説明する問題では市の平均を8.8ポイント上回っているが、38.2ポイントと低い。	・説明を書く問題に苦手意識を持っている生徒が多い。説明させる問題に多く触れさせて、分かりやすく説明を書く方法を丁寧に指導していきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	69.9	66.5	61.2
	粒子	73.3	70.2	62.3
	生命	74.6	71.8	65.7
	地球	68.1	65.4	61.0
観点別	知識・技能	74.9	72.0	67.3
	思考・判断・表現	69.2	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

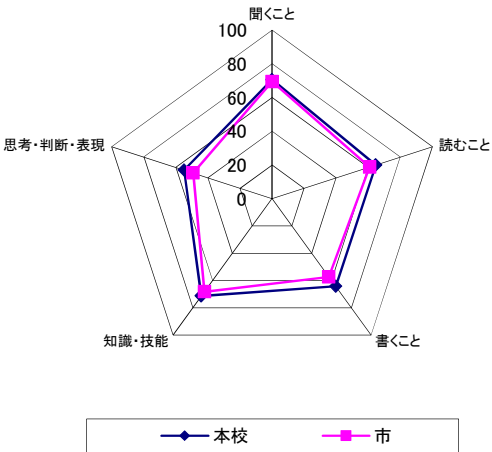
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギー分野の平均正答率は、市の平均を3.4%上回っている。また、「電力量を求めることができる」の正答率は、市の平均を10.2%上回っている。 ●「慣性によって、等速直線運動が起こることを推測できる」の正答率は、市の平均を9.2%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算は身に付いていると考える。ワークやeライブラリなどを利用して、さらに基礎基本の定着を図っていききたい。また応用問題にもその知識を生かせるように、授業の際に生徒の日常に即した、興味のある題材を取り上げて発展的な問題に挑戦させたい。 ・物体の運動に関して、力と運動の関係をまだ理解できていないと考える。実験の際に物体に加わっている力を生徒に考えさせていきたい。
粒子	○粒子分野の平均正答率は、市の平均を3.1%上回っている。また、「中和のしくみを理解している」の正答率は、市の平均を8.8%上回っている。 ●「酸素、二酸化炭素、水素のいずれの気体も集めることができる方法を理解している」の正答率は、市の平均を7.1%下回っている。	・基本的な知識は身に付いていると考える。ワークやeライブラリなどを利用して、さらに基礎基本の定着を図っていききたい。 ・気体の集め方に関して、まずは気体の性質確認を行う。また、自分で実際に実験方法を考えて実験するなど、より知識の定着を図れるような授業を行う。
生命	○生命分野の平均正答率は、市の平均を2.8%上回っている。また、「柔毛や根毛のつくりの利点を説明できる」の正答率は、市の平均を7.0%上回っている。 ●「消化の仕組みについて理解している」の正答率は、市の平均を4.7%下回っている。	・基本的な知識は身に付いていると考える。ワークやeライブラリなどを利用して、さらに基礎基本の定着を図っていききたい。 ・動物のからだのしくみについて、重要語句がたくさんあるため苦手意識を感じている学習者が多いように思う。教え込むのではなく、自分でまとめさせたりするなど工夫を行う。また、学習者がイメージを持ちやすいように、映像教材など視覚的にとらえやすいような工夫を行う。
地球	○地球分野の平均正答率は、2.7%上回っている。また、無色鉱物について理解している」の正答率は、市の平均を4.3%上回っている。 ●「あったかい空気と冷たい空気の動きを推察できる」の正答率は、市の平均を2.7%下回っている。	・基本的な知識は身に付いていると考える。ワークやeライブラリなどを利用して、さらに基礎基本の定着を図っていききたい。 ・知識はあるが、その知識を使って思考することが難しい傾向にある。実物や映像教材を学習者に提示し、考えやすいように工夫を行う。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.6	69.4	63.8
	読むこと	64.7	60.8	55.6
	書くこと	64.3	57.5	47.8
観点別	知識・技能	71.4	68.3	64.1
	思考・判断・表現	54.9	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「聞くこと」の平均正答率は市の平均を0.8%上回っている。 ●対話を聞いて与えられた情報をもとに質問に答える問題の正答率は市の平均を8.2%を上回ったが、正答率自体は低かった。 ○それ以外の設問の正答率はほぼ、市の平均を上回っている。	・All Englishの授業を行い、日常的に英語に親しませる。 ・リスニング教材を用いて、聞かせる回数を増やす。 ・英語の授業の最初に英語でのやりとりの活動を積極的に取り入れる。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は市の平均を3.9%上回っている。 ●メールの文を読んで新たな返信メール文の空所に当てはまる語句を選ぶ問題では市の平均を下回っていた。 ○それ以外のポスターや発言、対話の内容をもとに空所に当てはまる語句を選ぶ問題の正答率はほぼ、市の平均を上回っている。	・単語の意味や文の構造などにも注意しながら読ませるようにする。 ・教科書の本文の中でQ&AやTorFといったおおまかな内容をおさえるとともに、それにかかわる細かい内容の読み取りができるようにする。 ・多くの長文読解問題に慣れさせるために教科書以外の様々なジャンルの英文を読ませる。
書くこと	○「書くこと」の平均正答率は市の平均を6.8%上回っている。 ●場面に応じて英文を書く問題の正答率は市の平均を下回るものもあった。 ○文法の問題や並びかえの問題、3文以上のまとまった英文を書く問題の正答率は市の平均を上回っている。	・連語などを活用することで表現力を高めさせる。 ・自分の意見を英語で伝えられるよう実践的な場面を与えた上での書く活動を取り入れる。

宇都宮市立宮の原中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・「開始時に着席している」の肯定割合は、1年97.3%、2年99.0%、3年98.5%で、「忘れ物をしない」の肯定割合は、1年94.7%、2年97.4%、3年96.9%で、全て90%を超えている。 「授業に集中している」の肯定割合は、1年92.0%、2年91.3%、3年95.4%で、全て90%を超えている。
・授業展開の工夫	・一人一人が考えを伝えあい、互いに高め合う授業の展開を工夫する。 ・ICT等を効果的に活用した授業の展開を工夫する。	・「グループでの話し合いに積極的に参加している」の肯定割合は、1年85.0%、2年92.3%、3年82.7%で、全て80%を超えている。 ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合は、1年76.1%、2年78.1%、3年76.0%で、80%に達していない。 ・「ものをいろいろな視点や立場から考えている」の肯定割合は、1年82.3%、2年86.7%、3年86.7%で、80%に達している。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は、1年78.8%、2年78.1%、3年89.3%で1,2年は80%を超えられなかった。3年生になると数値が上昇しており、1,2年は、市の割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・現在の学力を維持させていくために、学業指導を基本として3つの重点的な取組を次年度も継続していく。

・生徒のパソコン活用スキルの差に課題が見られる。授業の色々な場面や家庭学習等での1人1台端末の操作に慣れさせ、各教科で活用の工夫をしていく。
（「パソコンを使ってまとめることができる」の肯定割合は、1年94.2%、2年90.3%、3年86.2%である。「パソコンを使って相手に分かりやすく、自分の考えや調べたことを伝えることができる」の肯定割合は、1年89.4%、2年82.1%、3年78.6%である。両方とも2,3年は、市の割合を下回っている。）

・家庭での学習については課題が見られたので、繰り返し家庭学習の目的や内容について根気強く指導していく。
（「その日のうちに復習している」の肯定割合は、1年38.5%、2年36.2%、3年40.3%となっており、昨年の割合より1,2年は減少している。「自分で計画を立てて取り組んでいる」の肯定割合は、1年59.3%、2年52.6%、3年58.7%となっており、昨年の割合より2,3年は減少している。）